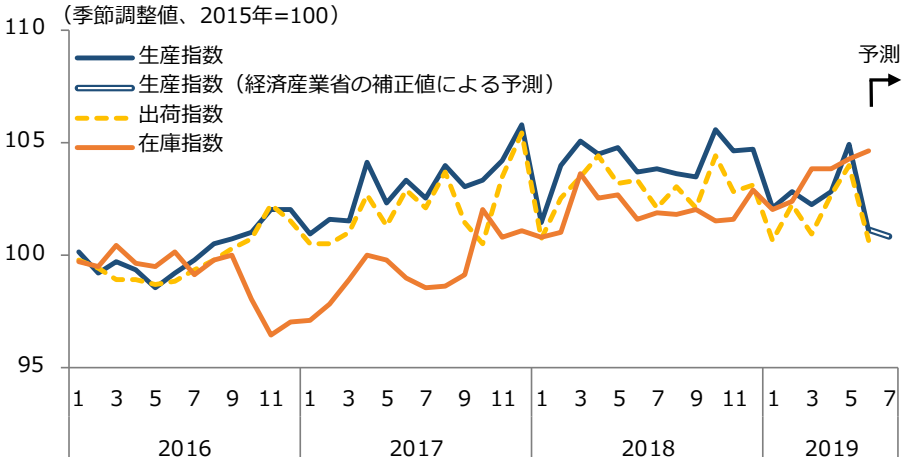
日本

鉱工業生産指数（2019年6月）

# 輸出の減少基調を背景に、生産指数は低調な推移が継続

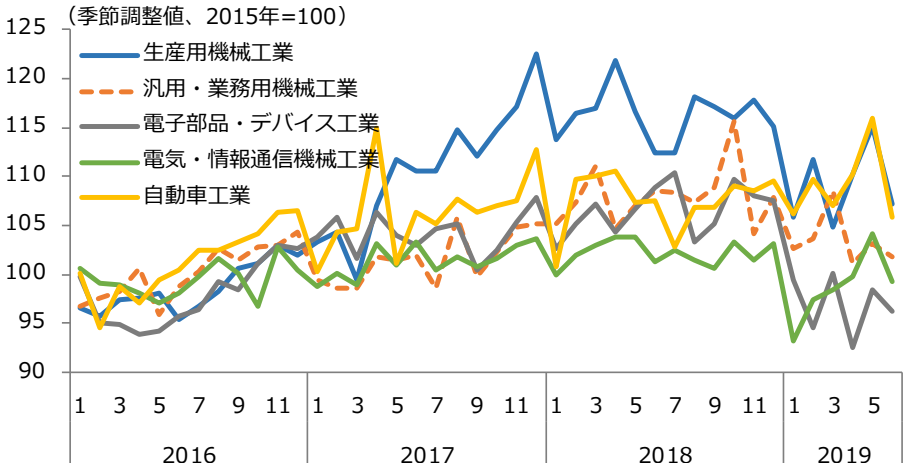
政策・経済研究センター
田中康就
03-6858-2717

## 1　鉱工業指数（生産・出荷・在庫）




出所：経済産業省「鉱工業指数」「製造工業生産予測指数」

## 2　業種別の生産指数




出所：経済産業省「鉱工業指数」

## 評価ポイント

### 今回の結果

- 6月の鉱工業生産指数（速報）は、季調済前月比▲3.6%と、3ヶ月ぶりに低下し、17年1月以来の低水準となった。ただし、四半期ベースでみると、5月が高水準となったことから、19年4-6月期は季調済前期比+0.6%と2四半期ぶりに上昇した。
- 業種別にみると、15業種のうち13業種が低下。生産に占めるウェイトが大きい自動車工業（季調済前月比▲8.8%）が、前月からの反動もあり大幅に低下して全体を押し下げた。生産用機械工業（同▲6.9%）も、前月に高めの伸びを示した半導体製造装置や金属加工機械が減少に転じ、2ヶ月ぶりに低下した。
- 世界的な半導体関連需要の調整が下押し圧力となっている電子部品・デバイス工業（同▲2.1%）は2ヶ月ぶりに低下。19年以降、18年に比べて低い水準で推移している。また、汎用・業務用機械工業（同▲1.3%）も、中国などアジア向け輸出の減少や、在庫調整圧力の強まりが生産抑制要因となり、低下傾向が続いている。
- 製造工業生産予測調査によると、19年7月の生産は季調済前月比+2.7%と見込まれている。予測値に対する実績値の平均的なズレを経済産業省が補正した値は同▲0.3%程度であり、7月の生産は2ヶ月連続の減少が予想される。

### 基調判断と今後の流れ

- 生産指数は、中国などアジア向け輸出の減少傾向や世界的な半導体関連需要の調整を背景に、18年に比べて低い水準で推移している。
- 先行きも、生産指数の低調な推移を予想する。国内向けでは一部の業種において消費税増税前の駆け込み購入に備えた増産が見込まれるものの、海外向けでは中国経済の減速などを背景に、輸出比率が高い電子部品・デバイス工業や生産用機械工業、汎用・業務用機械工業などで減少が見込まれる。
- 生産の下振れリスクとしては、①世界経済の一段の減速や、②輸出減少の波及による国内需要の悪化、③日米物品貿易協定（TAG）交渉による対米輸出環境の悪化、④金融市場における一段の円高進行、が挙げられる。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.